

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームゆう&あい向陽
(ユニット名)	2 階
所在地 (県・市町村名)	北海道北見市美芳町1丁目8番4号
記入者名 (管理者)	宮野 友美
記入日	平成 20年 10月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、法人としての理念とは別に事業所独自の理念を掲げ、本年4月、年度が変わり全職員で再度話し合い確認を行った。	今後もニーズや事業所の状態が変化した場合、随時スタッフ全員で考えていきたい。
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の際に理念を再確認する他、各ユニットに提示し全てのスタッフが実現に向け行動している。	会議や普段の会話時などに意見を交換しあい、日常的に理解を深めている。
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの見やすい所に明示し、入居見学の際や運営推進会議の場などでわかりやすく説明している。	運営推進会議の場などでもたびたび話題にし、理念を自然に受け入れていただいている。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際に声をかけ合い顔見知り関係になり、来所は時々あるものの気軽にとまではいっていない。	近隣の方の参加も出来る行事や企画を立て、様々な場面で交流出来る様工夫している。
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り定期的な総会に参加したり、地域の方にボランティアとしてホームの行事に参加して頂いたり、焼肉やクリスマス会を一緒に行ったりと交流を深めている。	救命救急の講習などを地域の方々と一緒に行っている。地域の方々に広くお便りなどを発信しグループホームへの理解を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の場を利用し、包括支援センターの職員を交え意見交換を行ったり、地域の方の希望で役所職員を講師に招き、ゴミの分別方法変更の説明会を行ったりと皆で話し合い取り組んでいる。</p>		<p>知識を活かし高齢者の住みやすい環境作りに貢献していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価された内容を再検討し、今後の課題としてあげ改善に向け取り組んでいる。又、全職員で自己評価に取り組み意識を高めている。</p>		<p>改善点に対しどのように取り組んでいくかを重点におき、会議の場等で話し合いを行っている。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>おおむね2ヶ月に一回会議を開催し、状況報告や意見交換を行っている。前回の改善点であった災害時の対策として、近隣の方の協力を得るため運営推進会議の場を活用した。</p>		<p>今後も運営推進会議での意見を参考に、サービスの向上に活かしていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>利用者に関する報告以外でも何か特別なことがあれば随時相談し密に連絡を取り合っている。</p>		<p>サービスに関することでもわからないことがあれば確認し質の向上に努めている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業や成年後見人制度の研修を受け制度の理解はしているが現在利用されている方がいなく、必要な時には活用できるように準備できている。</p>		<p>今後、会議の場などで学習会を開き、より知識を深めていきたい</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>常日頃から職員の介護の仕方について話し合い、利用者個々に合わせた対処ができるよう指導をすることで虐待の事実は今のところない。</p>		<p>外部研修などにも積極的に参加していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から何度かお会いし、話やすい雰囲気を作るように心がけ、不安・疑問には具体的に説明を行っている。	不安や疑問点については随時相談頂き対応している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置する他、随時意見・苦情に対応できるような体制をとっている。	苦情や相談の第三者窓口も提示により紹介しており遠慮なく相談いただけるよう配慮している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来所時に日々の生活ぶりや変化・金銭管理の状態などを毎度報告するようにしている。	健康状態については、変化の見られた場合にはすぐにご家族へ電話にて報告し、過去に似たような症状が出た事があるかなどお聞きし個別に対応している。職員の交代や行事など報告がある場合はお手紙にして送るなどの対応もしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置する他、随時意見・苦情に対応できるような体制をとっている。又面会時ご家族に近況報告以外にも意見や相談事などが無いか伺ったりし、話しやすい関係作りに努めている。	苦情や相談の第三者窓口も提示により紹介しており遠慮なく相談いただけるよう配慮している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議開催は勿論の事、日常でも職員が自由に意見を述べられるような雰囲気である。	職員の意見や考えを反映していけるよう日常的に情報交換を行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	随時利用者の状態に応じ対応できるよう話し合い、調整をしている。	いつでも柔軟な対応ができるよう十分な職員の確保に努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り環境を変えることなく馴染みの関係を切ることのないよう配慮している。	業務上仕方のない異動の際、ダメージを少しでも軽減できるよう現職員との交流を密にとったり、新しい職員との関係作りに皆で支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員各々の段階に応じた外部研修に参加し、研修で得た知識を他職員に報告し共に学んでいる。	外部だけではなく法人内の各グループホーム職員が集まり定期的に学習会を開いている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	包括支援センター主催で、地域のグループホーム職員が集まり意見交換を行っている。	多くの職員が参加できるよう、意見交換の場を増やすように各機関に呼びかけていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	管理者・主任を含め職員相互で日常的に相談など気兼ねなく話し合える雰囲気が出ており職員親睦の機会も設けている。	気軽に話し合える関係作りを大切にストレスのない環境を作り、和気あいあいとした職場となっている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	共に勉強するという姿勢を持ち、会議時に助言や指導をして頂いている。	やりがいのある職場作りに徹し、一人ひとり責任をもって仕事に取り組めるよう随時指導・助言をしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前に本人と話しをする機会を設け、不安感を取り除けるよう努めている。	事前に本人と話しをすることにより馴染みの関係を作り入所による混乱を防げるようにしている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	話しやすい雰囲気をつくるよう心がけ、現在の状況や不安な要素などを細かく把握できるよう努めている。	話しやすい雰囲気を作り、なんでも話せるよい関係が築けるよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な情報提供をして頂き、なにが必要かを見極め利用者にあったサービスが受けられるよう支援し、場合によっては他のサービスの利用の調整も行っている。		グループホームに限らず必要な支援を受けられるよう、他の事業所とも連携し対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して入られる雰囲気と関係作りを行うために事前に本人と会いお話しする機会を設けており、利用前から馴染みの関係を築き上げることが出来るよう工夫している。		より良いケアが行えるようご家族と密に連絡を取り合い相談しながら支援をしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に一緒に過しながら喜怒哀楽を共にし、時には職員の悩みの相談にのっていただいたりと支えあっている。		家族のような関係作りを目指し、互いに助け合いながら生活していることを意識していただけるように支援を続ける。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状態報告を行い家族からの意見や要望を聞き、家族と一緒に本人の生活に反映できるような関係を築くようにしている。		引き続き家族とのコミュニケーションを大切に相談のできる雰囲気をつくり対応していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族は気軽に面会しており、本人との時間を大切にしている。入所前より、本人・家族共に笑顔が増えた。		日常の会話で利用者のご家族について話されていたことを本人の変わりに伝え、気持ちが通い合う関係作りを支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の友人との関係も継続しており、贈り物をする際には職員と品物を一緒に選んだりと楽しみを共有し支援している。		来客時には、コーヒーやお菓子なども用意し各居室でゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の係わり合いは深まっている。時には衝突する事もあるが、職員の介入により孤立すること無く、互いに気遣いあい生活されている。		和やかな場となるよう、引き続き対応方法を工夫していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了してもいつでも相談頂けるよう十分な説明を行い、よい関係を続けている。		他施設や支援センターとの連携をとりながら情報交換を行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から何を望んでいるのかを読み取り傾聴し、本人本位に検討している。		把握が困難な場合には家族に意向を伺ったり、常に本人の立場になって考えるようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者からの日常的な会話や家族からの情報提供等を基に把握に努めている。		今後も普段の会話の中から個々の情報を得ると共に、家族からも情報提供をしていただき、把握に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全てのスタッフが日誌や申し送りなどから様々な情報を共有し一人ひとりを把握するよう努めている。		ご本人の生活ペースに合わせながら、日頃の生活の状態を把握し、その時に必要な援助を適切に判断できるよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護する側の立場のプランではなく、利用者本位のプランであるよう、本人や家族の希望や意見を取り入れ、反映させながら介護計画を作成している。		利用者の状態を把握し本人・家族と相談しながら、利用者の満足のいく生活実現に努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本3ヶ月ごとの見直しを行っているが、それ時以外でも特変に応じて計画書の再検討をしている。		介護計画は本人・家族・必要な関係者とその時に応じた対応の仕方を検討し、計画書に反映させている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌は行動のみでなくその時の雰囲気・表情・言動も詳しく記録するようにし、介護計画を立てる際状態が把握しやすいようにしている。ケアの実践結果も細かく記載するようにし、実践結果を元に次のケアやプランの参考になっている。		日誌は一日の流れを誰が見てもわかりやすいように記録され、細かい状態の変化にも対応したプラン作成に努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況に合わせ、医療連携体制を生かしターミナルに向けてのケアなどを行ったり、その時々々の要望に応じて対応している。		本人の希望があれば床屋に同行したり、利用者が望む生活が送れる様出来る限りの支援を行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会の方にボランティアとして行事に参加していただいたり、職員の技術向上のため消防に協力していただき、救命救急の講習会など定期的に行っている。		様々な形でボランティアとして協力していただいている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前にデイサービスに通われていた方には、本人と相談し希望であれば以前担当だったケアマネジャーからも意見を聞いた上でケアプランに反映させ通所を継続するなど支援を行っている。		極力、本人が望むようにサービスが受けられるよう支援している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議などで日々の相談事を取り上げ、共に考え実践に向け努めている。又、要支援の方のケアプラン作成時に相談にのっていただいたりしている。		協働する事により、専門職としての知識を活用し新たな視線で利用者の課題や希望を見出し、より良い生活となるよう努めている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族と相談し希望される病院を最優先にし、受診の際には職員も同行しかかりつけ医との関係を築いている。		本人と家族の意向にそった医療機関に受診できる様支援し、通院時に気軽に相談できる関係作りに努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>専門的な治療が必要な場合は担当医から専門医にお手紙を書いていただくなど協力していただき、その時の状態に合った病院で診察が受けられるよう支援している。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>週に2回訪問看護による健康チェックが行われ、健康状態の把握がなされている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>ご家族との連携を密にとることで状況の把握が出来ており、医師の行うムネテラの際には極力同席させていただいている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>本人の意思を尊重しホームでの最期を希望された場合には訪問看護事業所を活用するなどの対応もできる体制を整えている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>医療面でできないケアも存在するため多方面の事業所とも連携をとり利用者が最期の時まで望むケアを受けられるよう支援していく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>医療、介護保険サービス関係者への迅速な行動や連絡、面談を持ちながら情報交換、協議を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを損ねないように、まわりに配慮した言葉かけや対応を常に心がけており、個人情報の取り扱いにも十分注意している。	職員採用時に個人情報保護についての説明と法遵守の約束をしている。又、会議の席などで注意を喚起するなど、常に意識づけを行っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の暮らしの中で本人と話し合い、可能な限りささいな事でも自己決定が出来るような声かけ、見守りを行っている。	意思表示の上手に行えない方に対しても職員側からの積極的な声掛けやアプローチにより自分で決めたり納得した生活が送れる様努めている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活暦をふまえ、個々のペースを尊重しその日の状態に合わせて希望にそえるようケアを実施している。	本人のペースに合わせて生活していただけるよう、職員同士連携をはかりチームでケアを行うよう工夫をしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援したり本人の望む服を選んで着ていただいたりとしている。	馴染みの美容室へ通うことができるよう車の送迎等も対応している。又、遠方から入所された方に対しても近隣の美容室を紹介し、定期的に通うことでよい関係が築けている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみながら美味しく頂ける様メニューを知らせたり好みを聞いたりしている。又、一人ひとりの状態にあわせ、副食をカットしたりおにぎりにしたり等食べやすい状態にして食事を提供している。	利用者と一緒に会話しながら準備・後片付けをしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者本人のおやつ・飲み物は希望された時や食事・水分摂取の量をみながら支援している。食事が摂れない方には、医師の指示のもと、栄養ドリンクを提供したり、好物を準備したり工夫している。	誕生日には個々に好きなものを事前に聞き、用意している。又、おやつ作りなどを一緒に楽しみながら日々の生活が充実したものとなるよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し誘導を行ったり、訴え時にはすみやかに介助を行い失敗を減らし気持ちよく過ごせるよう支援している。		排泄状態を確認し担当医と相談しながら薬の調整を行っている。下剤を使わず排泄されるよう水分補給や運動を取り入れている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を考慮し、希望に沿うよう入浴を行っている。又、異性の職員に抵抗のある場合は、職員を交代するなど柔軟に対応している。		その時々に応じ無理強いすることなくタイミングをみて声掛けや誘導を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状態を把握しその時に応じ、安眠出来るよう支援している。		日中の活動を多くするなど、一日を通し様々な対策をとり、薬に頼らず気持ちよく眠れる様配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・食事の片付け等、利用者自ら役割りを見つけ積極的に行っており「これが私の仕事なの」と、楽しみにされ活気がある。		家事以外でも皆が集まった時には昔なじみの歌を歌ったりボールを使った簡単な遊びなどを行い、楽しみをもてる場作りをしている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望される方はご家族同意のもと行っている。又、管理できない方に対しても一緒に買い物に出かけ購入の手助けを行っている。		買い物に出る機会を作ったり必要物品や希望の品を購入出来る様、本人の意思を引き出しながら支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の状態に合わせて散歩・買い物等外に出る機会を設けている。外では、普段見られないような表情や行動があり、気分転換になっているようである。		希望時には天候が悪くない限り外出を支援し、畑の手入れや散歩などを楽しんでいる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春には花見、秋には菊祭りのご家族と共に出かける機会を作り支援している。		個々の希望が少ない為こちらから積極的に行事として普段行かないところに出掛けてみたりドライブに行ったりと外出する機会を設けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「知人からの贈り物のお礼状を書いたから見てくれないか」と手紙を持ってこられ、郵便局まで同行したり、電話をかける際の取次ぎをおこなったりと、それぞれにあわせた支援を行っている。		本人の意向を重視し、大切な人とのつながりを大切に考え、今後も継続していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問していただけるよう面会時間の制限はない。来所時はお茶やコーヒーなどでもてなし、居心地よく過ごせるよう気を配っている。		気軽に来所できる雰囲気作りを行い、ご家族のみならずご友人の来所や以前から信仰のある宗教の方々の来所も叶えられている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議やその時々話し合いにおいて、身体拘束について職員同士話し合い理解を深めている。		家族や本人と相談の上、ベット下にマットを置く等工夫をし、見守りの強化の元、事故のないよう配慮している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかける弊害を理解し、職員による見守りを強化することで利用者の安全を確保するよう工夫している。		建物の構造上ホームは他事業所と併設しているため、建物内の全事業所職員と相談の上、開錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人の人格を尊重しプライバシーに配慮しながら、昼夜通してのさりげない介助にて様子を把握し安全に過ごして頂いている。		一人ひとりがどのように過ごされているか把握し、日誌にも細かく記録している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、保管場所を決め管理実行している。包丁等はロックの出来る場所に保管している。		保管場所に変更がある場合はその都度申し送りをを行い、職員が把握できるようにしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを活用し、各職員がリスクの意識を高め、事故が発生した場合は再発防止にむけ改善すべき点を話し合っている。		リスクを常に頭におきながら、利用者一人ひとりの状態を把握し注意深く見守りを行う事で、事故を未然に防いでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	バイタル測定や異変箇所の確認、主治医への連絡等速やかに行えるよう申し送り時や会議の際に学んでいる。		緊急時対応マニュアルを作成し活用し、全職員が実際の場面で活かせるように、こまめに訓練を行い更に技術の向上に努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時に備え避難訓練を実施しマニュアルの見直しを行った。運営推進会議の場を利用し、地域の方に協力依頼を行い緊急連絡網を整備した。		災害時を想定しマニュアルを作成しているが、利用者の状態の変化に伴い適宜見直しが必要であるため、非難何訓練を継続し、話し合いを重ね更に注意意識を高めていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒等の危険を事前に予測しご家族に説明し、口頭で同意をいただいている。		予測されるリスクをご家族に説明し安全に過ごせるよう危険のある物は撤去したり工夫したりと個々に合わせて対応している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日誌に体調の変化や状態を細かくあげ職員同士で共有し、変化があれば訪問看護に相談したり家族に報告し受診するなど早期対応に結びつけている。		職員同士が利用者の状態を把握できるよう申し送り以外でも常に声を掛け合い情報の共有に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、処方箋を確認し薬の目的や副作用等の理解をこころがけ、受診の際に薬が変更になった場合には確実な申し送りを行っている。		服薬により変化があれば細かく記録に残し医療機関に情報提供を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動可能な入居者には、介護計画書に盛り込み取り組んでいる。また排泄チェック表の活用と、水分・食事の摂取状態の把握により、出来るだけ薬に頼らずスムーズに排泄が出来るように支援している。		各利用者の状態を把握しながら排泄調整をしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりに合わせ声掛けや介助で口腔ケアを行っている。		自力で行える方には声かけ・見守りをし、介助の必要な方には適切な介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態を把握する為、水分・食事摂取量を日誌に記載し常に把握している。一人ひとりの状態に合わせ、食事の代替品を準備したり、時間にこだわらず食べられる時に提供するなど個別で対応している。	個々の状態を把握し必要な栄養分を摂れる様、嗜好を取り入れたり食事の形態を工夫するなどして取り組んでいる。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修会に参加し感染予防の知識を深め、感染予防マニュアルを作成し実行している。	手洗い・消毒の声掛けを行い徹底した感染予防に努めている。又、ホーム内もこまめに消毒をし、感染予防に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・調理用具など使用の度に洗剤を使い流水で洗い流し、台所用品は漂白除菌を行い衛生には十分注意をしている。	台所のみならず施設内の清潔や衛生を保つよう努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご家族や近隣の方が親しみやすく感じていただけるよう、玄関周りや建物の周囲に工夫をする等、努力をしているが建物の構造上難しいところもある。	プランターを玄関周りに設置したり道路側も花を植え、親しみやすく明るい雰囲気作りに努めている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、設備面では家庭的とは言い難いが、装飾を施したり、季節を感じとっていただける様な行事を行ったりと工夫をし、居心地の良い空間となるように心がけている。	不快な音や光がないよう配慮し、車椅子の方も皆と一緒にゆったり過ごせるよう狭いスペースの中でも工夫して対応している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内いくつかソファを設置したり、居間へ自由に出入りできるように工夫している。	その時の状態をよく観察しながら本人の意を読み、自室に誘導したり、他利用者や職員とゆっくり過ごせる場を作るなど状態に合わせて対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談し使い慣れた家具や家族の写真などを持ち込んで頂き安心して過ごせる居室作りを行っている。		本人の家具を持参する事により、安心して落ち着いて過ごされている。又、場所の見当識に混乱が起きた場合、馴染みの筆筒や仏壇を見て落ちつく事が多い。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日に何度か窓を開け換気を行っている。又、空気清浄機を設置したり、消臭剤を活用したりと気を配っている。室温の調節にも気を配っている。		利用者個々に合わせた室温調整を行い気持ちよく過ごして頂けるよう支援している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴槽等、各所に手すりやすべり止めを設置し、利用者の状態に合わせて工夫を行っている。		利用者一人一人の状態に合わせてできる限り自立した生活が送れる様支援し、安全な環境が確保されるよう工夫している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレなど各所に名前を書いた貼紙をし目印を付ける等工夫している。		一人ひとりのわかる力を把握し、個々に合わせた対応で混乱や失敗を少なくなるよう工夫している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に花壇や畑を利用者と共に作り、成長過程や収穫を楽しまれている。		草むしりや水やりなど様々な場面で利用者と楽しみながら活動している。また、収穫を一緒に行い調理し食すまで皆が喜びながら参加されている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの意向を掴んでいる。
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者にみられている。
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが出かけている。
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が過せている。
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が暮らせている。
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと出来ている。
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が働いている。
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが満足していると思う。
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが満足していると思う。
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

心と心の絆を大切に

- ・ その人がその人らしく、笑顔のあふれる生活を支援します。
- ・ 喜怒哀楽を共に、支えあう関係を築きます。
- ・ 地域に根ざし開かれたグループホームを目指します。
- ・ 利用者・家族・地域の方々との関係を大切にします。

グループホームゆう&あい向陽の理念とし、職員一同、実現にむけ努力しております。